

適応ビジネスの普及啓発活動に関する検討状況

1. 目的及び検討内容

1.1. 目的

適応策のニーズが民間企業に大きなビジネスチャンスを拡大している面があることから、北海道内の民間企業等における適応ビジネスを育てる（普及させる）ことを目的として、適応ビジネスの成功事例・適応ビジネスのニーズ等の収集や、民間企業（金融機関含む）を対象とした普及啓発活動（セミナー等の開催、現地視察等）を実施する。

1.2. 今年度の検討内容（概要）

「北海道ならではの適応ビジネスを定義する」という新たな切り口を探すために、情報収集・現地視察・ヒアリング・セミナー・意見交換会を行う。

1.3. 今年度の検討内容（詳細）

今年度の検討項目を以下に示す。

(1) 既存の適応ビジネスに関する情報収集

既存の適応ビジネスの事業内容について、適応ビジネスを展開している地域の気候・地形・文化、経済社会状況等、地域特性や地域課題の観点から情報収集を行う。

- 既存の全国（または世界）的な適応ビジネスについて情報収集する。
- 既存の北海道の適応ビジネスについて整理する。

(2) 適応ビジネスに関するヒアリングまたは現地視察

既存の適応ビジネス（3件程度）に対して、ヒアリングまたは現地視察を行う。

- ヒアリングや現地視察を通して、北海道地域の気候・地形・文化・経済社会状況等、地域特性や地域課題の観点から情報収集を行う。
- 今年度は、まずは現地視察やヒアリングの実現可能な事例から実施する。
- 現時点で既存の適応ビジネスとして成立していなくとも、今後「適応ビジネスとして有効な技術になり得るもの」に対して現地視察やヒアリングを実施する方向も検討する。

(3) 意見交換会等の開催

- 現地開催またはハイブリッド形式で、2回開催する。
- 今年度は、情報発信よりも情報収集を目的として行う。

(4) 結果の整理・広域協議会への報告・(必要に応じて) A-PLAT 上で公開

➤ 広域協議会への報告は、メールや文書等で行う。

1.4. 参考：適応ビジネスについて

以下に、A-PLAT における「適応ビジネス」の定義を示す。

＜事業者求められる気候変動への適応＞

① 気候リスクの管理

➡ 自らの事業活動への影響を軽減させるもの

② 気候変動をチャンスに変える適応ビジネス

➡ 一般消費者や他の企業の適応を促進する製品・サービスを展開するもの

出典：A-PLAT「4-10 事業者の取組」の内容を参考に事務局が整理。

https://adaptation-platform.nies.go.jp/climate_change_adapt/adapt/a-0410.html

図 適応ビジネスの事例

分野	事例（タイトル）
農業・林業・水産業	- ICT 技術を活用した農業支援サービスの提供 - コンポスト土壌改良材による収量量の向上 「バイオサイクル」で持続可能な農業に貢献
水環境・水資源	- 資源の確保・水安定供給 - 高濃度酸素水供給による湖浄化 - 遠隔監視システムを用いた分散型給水システムの導入による安全な飲料水の確保
自然生態系	- 石けん系消火剤を用いて山火事による動植物への影響を軽減 「Biome（バイオーム）」を用いた気候変動いきもの大調査（冬編）
自然災害・沿岸域	- インフラ強靱化により高潮、津波の被害を低減 - 大型台風等の風害リスクから建物を守る防風対策 - 集中豪雨による内水氾濫から生活を守る止水ソリューション
健康	- 薬剤を使わずに蚊を捕獲する空気清浄機「蚊取空清」の開発 - 高い通気性を持つ化学防護服による現場における暑熱対策 - エアコン室外機の節電対策：「グレタコート」と「省エネカバー」
産業・経済活動	- 現場建設作業を大幅に削減するモジュール工法/J・I・ModuleR - 東南アジアにおける農家向け天候インデックス保険 - 環境変化に強いハイブリッド発電制御システムの導入
国民生活・都市生活	- 自然の冷却効果を活用した「フラクタルひよけ」 - 屋内と屋外の暑熱環境を緩和し、災害時のガラス飛散も防止する「熱線再帰ウインドーフィルム」 - IoTとパッシブフルーツの緑化で風を作り都市を冷やす【クールアイランドシステム】

出典：環境省「民間企業の気候変動適応ガイドー気候リスクに備え、勝ち残るためにー改訂版（令和4年3月）」

https://adaptation-platform.nies.go.jp/private_sector/guide/pdf/Adaptation_Guide_Revised_rev.pdf

なお、本事業では以上の定義の他に、「気候変動影響自体をチャンスと捉えるビジネス」についても適応ビジネスの枠組みに入れ、既存の適応ビジネスの定義のみに限定せず、幅広い可能性を検討していく。

2. 進捗状況

現時点の進捗状況について、下表に示す。

表 成果・内容・進捗状況等一覧

成果	内容	進捗状況等
既存の適応ビジネスの事業内容についての情報収集	【内容】観点：気候・地形・文化・経済状況等	● A-PLAT 掲載されている全国的（世界的）な適応ビジネスについて整理した。（Excel 形式） ● 北海道庁 HP に掲載されている北海道の代表的な適応ビジネスについて整理した。（Excel 形式） ● 整理した情報をもとに、適応ビジネスの分類を行った。（※） ● 北海道の地域特性について「北海道データブック 2024」の情報をもとに抽出した。
ヒアリング／現地視察	【内容】ヒアリング／現地視察、3 件程度	● 道内のスタートアップ 2 社に対して「気候変動によりリスクに適応するためのニーズが発生し、ビジネスチャンスとなる事例」（※）としてヒアリングまたは現地視察を打診。 ● 道内の水産分野の企業 1 社に対して「気候変動により今まで出来なかったことが出来るようになる事例」（※）として現地視察を打診。
意見交換会／セミナー	【内容】2 回程度	● 大学の支援プログラムを通じて、若者向けのセミナー・意見交換会を検討。

※ 3.（参考）適応ビジネスの分類にて、分類結果を示す。

3. 参考：適応ビジネスの分類

「既存の適応ビジネスの事業内容についての情報収集」にて収集した情報に基づき、2つの観点において、既存の適応ビジネスについての整理を行った。分類結果を以下に示す。

観点①：企業の所在地とビジネスの展開地域に着目した分類

表 企業の所在地とビジネスの展開地域に着目した分類

分類	観点（所在地）	具体例
A	企業所在地とビジネスの展開地域が異なる	東京の企業が熱ストレスに強い牛舎を開発し、地方の牧場へ技術提供をした。
B	企業所在地とビジネスの展開地域が（概ね）一致する	企業が所在地の県内や地方内において次世代型農作物工場を営んでいる。

観点②：事業内容に着目した分類

表 事業内容に着目した分類

分類	観点（事業内容）	具体例
C	気候変動によりリスクに適応するためのニーズが発生し、ビジネスチャンスとなる	企業が給水システムを開発し、気候変動による水質変動や水不足に悩むミャンマーにおいてシステムを導入した。
D	気候変動により今まで出来なかったことが出来るようになる	気温の上昇により、今まで生産できなかった亜熱帯果樹の生産が可能となり、当地域で生産された亜熱帯果樹を使用した酒類を発売した。

図 パターン C の適応ビジネスの構造

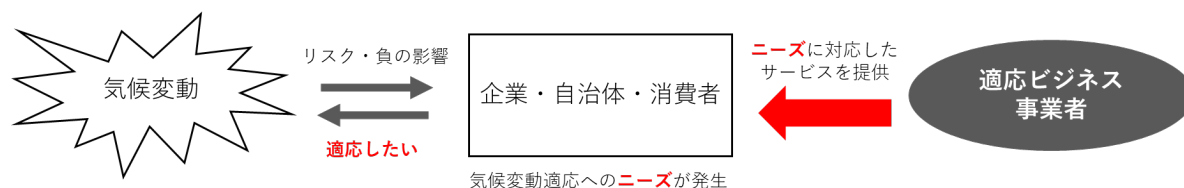


図 パターン D の適応ビジネスの構造



以上